

四月に入って東京で流行した「はしか」は、五月に入り全国的に広まり各地の大学で今も休校が相次いでいます。

一般常識では、はしかは、はしかウイルスによって感染すると、感染経路は「空気感染」や「空気中に飛散した病原体が、空気中で飛沫の水分が蒸発して軽い微粒子（飛沫核）となっても病原性を保ったまま、単体で浮遊して他人まで到達する「飛沫感染」のほかに「接触感染」があります。

根本的治療法はなく、解熱剤、鎮咳去痰薬、輸液や酸素投与などの対症療法を行います。引き込んだ原因までは解決できません。ワクチン接種歴により軽く済むといわれますが、免疫ができた後残っている患者で

は、軽症な経過をとることがありますが、後年再び感染することが多いことも知られています。しかし、ワクチン接種を行っていても十分な抗体価がつかない場合もあり、麻しんウイルスとの接触がなまま長時間を経過す



自然医学総合研究所所長

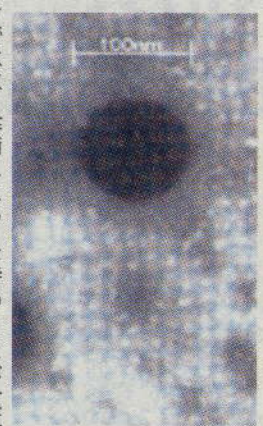
## 大沼 善誉

# 自然治癒を科学する

とから白血球も元気がなく学習能力が低下してしまいます。

予防接種の問題はここからです。インフルエンザの場合で考えてみるとわかりやすいと思いますが、毎年A型かB型が流行するとして予防接種を受けてきたにも関わらず感染している方もあるという

事実は周知の通りで



麻しんウイルス

けではなく季節による自己免疫の違いによって、自己免疫の強いように思います。春の野菜や山菜が出回った後に鼻炎が発症するように、

## 予防接種の盲点

具体的には、夜十時前に寝るだけでも自律神経の機能は高くなります。また、玄米など胚芽の残っている米を主に

す。また湿度が低下し、空気が乾燥する時期に流行することも感ずる条件で、流行期が過ぎると終息に向かうことも事実です。インフルエンザの場合は、フルエンザの場合は、高熱を出して滅菌後に抗体が作られます。はしかの場合は高熱を出した後に発疹が出て終

わりますが、この違いは、ウイルスの性質だから自己免疫が

十年代に予防食材として発表された「デザートフード」の最上位にもんにくが上げられていて、にんにくの臭み成分であるアリシンは、唾液、消化液の分泌を促進し、胃腸の働きを活発にして、食欲を増進させる効用があるほか、殺菌作用は非常に強力で、十二万倍に薄めた液でもコ

食に、黒豆や新鮮な有機野菜を摂取することで酸化を防ぐことが出来ます。また、にんにくの黒焼きを食べることでさらに免疫力が高くなるのが知られています。中国では、感染症が流行する時期には、病院ではなく、八百屋に行列が出来ますし、アメリカでは九

お問い合わせ  
電話 052・801・7063  
Eメール yoshinori@nrt.ne.jp  
URL http://www.nrt.ne.jp

化学博士・平成11年度  
社会文化功労賞受賞・  
ナチュラルケアセンタ  
ー院長  
(毎月、第1木曜日  
に掲載します)

### 講演会のお知らせ

テーマ(1)  
「癌を克服するためにIV」  
講師 酒匂猛 岐阜県中津川市立病院外科部長 医学博士  
テーマ(2)  
「万病は自然治癒力が治す」  
講師 大沼善誉 自然医学総合研究所所長 ナチュラルケアセンター院長 平成11年度社会文化功労賞受賞 生化学博士・名誉医学博士  
開催日 6月17日(日) 名古屋  
会場 市東区ウィルあいち  
時間 午前10時開演  
会費 会員無料  
非会員1000円  
主催 民間非営利団体 国際自然免疫学会  
共催 自然医学総合研究所  
申し込み 自然医学総合研究所  
TEL 052・801・7063 まで